房総の文化財

VOL.22
平成12年8月31日
財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
TEL 043-422-8811(代)
FAX 043-422-8850
www.chibaken-bunkazai-center.or.jp

ISSN 0919-0848
Bōsō no bunkazai

発掘調査速報

古代の水路と縄文時代の土器塚？　－印西市西根遺跡－

西根遺跡は、印西市南部を流れる戸神川沿いの低湿地にあります。数年前、たまたま川に遊びに来ていた親子が、川底から縄文土器を拾い、この遺跡の発見につながりました。

平成11年度の調査で、縄文時代の遺物のほかに、古墳時代から中世にかけての水路跡や、堰の跡が見つかりました。水路跡からは、木製の農具（柄振、鋤、杵、田舟など）や墨書土器が出土しています。

水路跡の調査風景（後方の台地上は船尾白幡遺跡）

形代（木製で、上が「人」、下が「馬」をかたどったと思われる。長さは、両方とも約8㎝。奥の板材は、曲物の底板）

鋤（古墳時代のもので、一枚板で作られていた。柄の部分は、くりぬかれており、当時としては珍しい作り方である。長さ、約106㎝）

また、祭り（まじない）に使われたと思われる「形代」も出土し、注目を集めています。

水田跡はみつかっていませんが、豊富な農具が出土した水路、そこに設けられた堰から、当時の水田耕作を想像させます。

堰跡（水路の水をせき止める施設で、一本梯子が再利用されていた）

一方、縄文時代の活動の跡として、後期中頃（約3500年前）の多量の土器を寄せ集めてた跡が見つかっており、さながら、土器塚のようです。

なお、調査は、平成12年度も継続して行なわれております。

土器塚？（数個から十数個体分の土器がまとまって見つかった）

遺跡今昔物語

－印旛地域の集落と古墳群－
佐倉第三工業団地発掘調査

野中5号墳
（全長約46m、幅37mの前方後円墳）

出土した玉類

佐倉市の南東部に位置する「佐倉第三工業団地」の建設に伴い、昭和50年から昭和60年にかけて発掘調査を行ないました。そして、平成８年までにその成果のすべてを報告書として刊行しました。

発掘調査の結果、旧石器時代から奈良・平安時代までの16の遺跡が見つかりました。また、池向遺跡野中５号墳をはじめとして、大小160もの古墳時代後期ころ（約1500年前）の古墳と、それと同じ時期の集落跡が調査されました。これらの集落の中には、古墳から発見された土器と同じ模様をもつ杯（十又は×模様）が出土した住居跡（タルカ作遺跡）もあり、古墳を造った人々の集落であった可能性があります。

奈良・平安時代の集落は、それらの古墳を避けるように、古墳が造られなかった台地に営まれていました。この集落の中で、六拾部遺跡からは、仏教に関係する遺物が見つかりました。また、掘立柱建物跡の中には、集落内の「お堂」と考えられるものがあり、この地域の集落に仏教が伝わっていたことが分かりました。

かつて遺跡のあったこの地は、最先端の技術の企業を集めた工業団地として生まれ変わりましたが、一部、古墳公園として保存され、市民の憩いの場となっています。

なお、出土品等の資料は、当センター本部（四街道市）で保管しています。

造成工事前の佐倉市岩富・神門・宮本地区（昭和54年撮影・南から／撮影：森　昭）

六拾部遺跡出土の仏教関係の出土品（左上から瓦塔の1階部分、仏鉢、香炉の蓋2点、中央：蓋付きの薬壺、左下から「白井寺」と書かれた杯、瓦塔の屋根）

完成した佐倉第三工業団地は、東関東自動車道・佐倉インターチェンジに近く、広さは約100haにも及ぶ
（平成8年撮影・南東から／提供：佐倉市）

遺物紹介コーナー

灯明皿　－灯りの道具－

江戸時代は、さまざまな燃料を使った灯火具が考案されました。菜種油などの液体油を用いる灯火具では、「灯心・油・油を溜めておく器」を組み合わせて使っていました。

灯心は、「藺」（別名・トウシンソウ／イグサ科）という植物の髄を使用。
（灯心提供：県立房総のむら／上皿は現代のかわらけ・下皿は東金市前畑遺跡の出土品を使用）

はじめは、土器の皿を器に使っていましたが、後に、陶器製の専用の灯明皿がつくられるようになりました。また、ヒョウソク・タンコロなどの形（写真右）も考案され、またたく間にその種類が増えていきました。

一方、今までどおり、油の多い松の根を燃やしたり、イワシやニシンの油を菜種油の代わりに使ったりしている家もありました。

また、ロウソク・行灯・燭台・提灯も普及し、都市・農漁村を問わず、江戸時代は、まさに「灯りの文化」の華が開いた時代でした。

左の写真は、灯明皿の使用例です。小型の皿（灯明皿）を上に、下に同じ大きさの、切り込みの入った桟を持つ皿（受け皿）を重ねて使用した例です。２つの皿を重ねることにより、上皿から垂れた油を下皿で受けることができました。当時の人々は細かな工夫をして、高価な菜種油を一滴も無駄にすることはありませんでした。

現代、不夜城となった街灯りとは全く対照的に、暗闇の中のほのかな灯りは、私たちの心を落ち着かせてくれます。

1. ヒョウソク　2. タンコロ形のヒョウソク　3・4. 灯明皿
5. 油徳利　6. ロウソク形のヒョウソク　（佐倉市弥勒東台遺跡出土）

日本の時代区分表

（100年を5㎜で表現してありますので、縄文時代は約50㎝にもなります）

埋文レポートコーナー

●「土器ッと古代“宅配便”」実施中

ー見て・さわって歴史体験ー

学校や公民館などの教育施設に、当センターが発掘調査した出土品を提供し、授業等に活用していただく企画を、平成12年3月からスタートさせ、好評を得ています。

平成12年6月現在で、小中高・盲学校合わせて13校の利用がありました。

児童・生徒及び先生から「本物の土器や石器にさわれて、ゾクッとした」（市川市立宮久保小学校6年児童）、「矢じりは、私にも作れますか」（市原市立八幡中学校1年生徒）、「黒曜石のナイフ（模造品）での紙切りに人気がありました。先人の工夫・知恵が印象深く心に刻まれたようです」（市川市立富美浜小学校教諭）、「視力障害者にとって、実物にさわれるのは本当にありがたいことですね」（県立千葉盲学校教頭）などの感想が寄せられました。

「この石器で、木の実をすりつぶしたんだね」（県立千葉盲学校）

平成14年度から、学校現場では、「総合的な学習」が完全実施され、今後ますます「体験的な学習」が高まることと思われます。

それに伴い、「土器ッと古代“宅配便”」の申請もさらに増加することが予想されます。

「スゴイ！本物の土器だ」（市川市立妙典小学校）

「もうすこしで火が起こるぞ！」（習志野市立谷津小学校）

■申込み・問い合わせ：
当センター資料課　☎043－422－8811（代）

●千葉市の小学生、原始・古代を体験

千葉市立扇田小学校6年生47名は、4月26日、学校の近くにある当センター中央調査事務所を訪れ、土器作りの体験と黒曜石を使っての魚のさばき方の実演を見学しました。中でも、三浦所長による、「スズキの三枚下ろし」に目が釘付けでした。

「スゴイ切れ味だね！」

後日、「今までで、一番心に残ったのは、石器の実演でした。貝がらを使ったうろこはがしもすごかったです。大人になったら、こういう仕事をしてみたいと思いました」（男子児童）などの感想文が届けられました。

●千葉県総合教育センター長期研修生レポート

マイ土器の完成（県立房総風土記の丘にて研修）

当センターは、平成10年度から学校の先生方を対象とした長期研修生を受け入れ、埋蔵文化財に係わる研修を実施しています。

今回は、昨年度の研修生の一人・藤田大安先生（現・市原市立千種中学校教諭）からのレポートです。

「文化財センターでは、専門知識・技術の習得のほか、県内の史跡見学、発掘現場での実習などの研修を受けました。研修を通して、見識を深めることができたのはもちろんのこと、いろいろな人と知り合うことができ、とても有意義な1年間でした」。

お知らせコーナー

●お待たせしました！ホームページ開設

5月1日にホームページが産声を上げました。主な内容は、「これまでのおもな成果」（当センターが調査した、代表的な遺跡の紹介）、「発掘調査速報」（現在調査中の遺跡のうち、スポットを当てたい遺跡）、「お知らせコーナー」（遺跡見学会や出土品展示会などのご案内）などです。

内容は、順次、更新していく予定です。みなさんのアクセスをお待ちしています！

www.chibaken-bunkazai-center.or.jp
（ホームページ・アドレス）

■表紙について
左奥：石槍（縄文時代／柏市小山台遺跡出土／長さ約17.5cm）
中央：つまみの付いた石器（縄文時代／流山市大久保遺跡出土／長さ約15.5cm）
撮影：堀越知道